

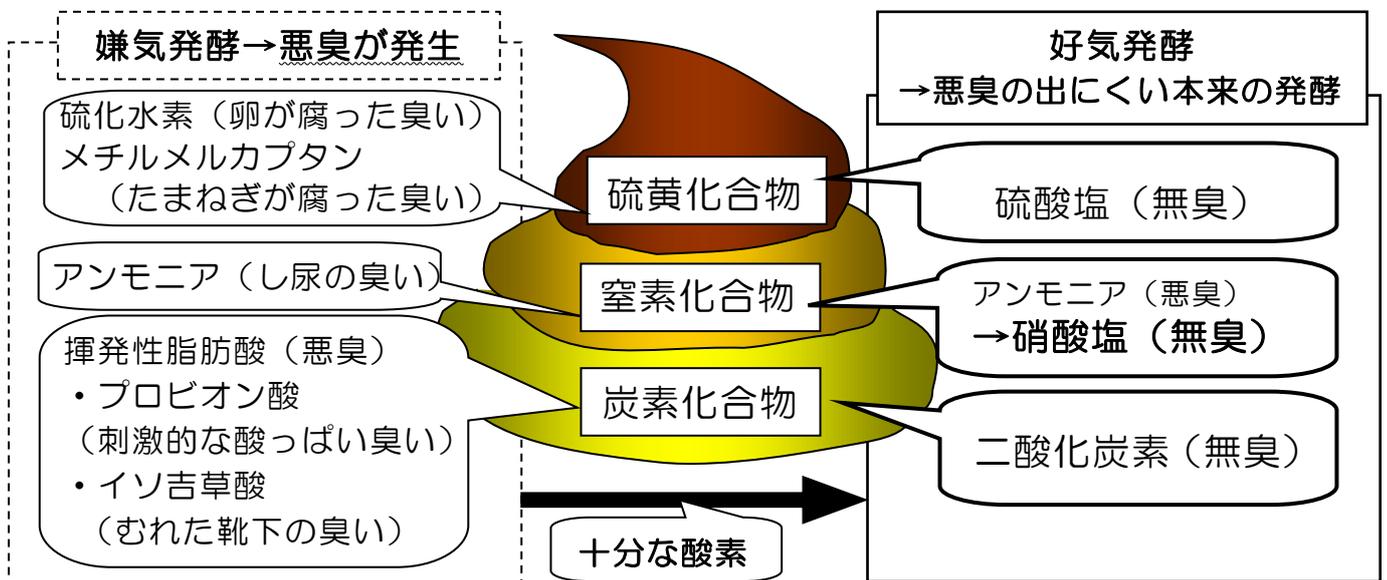
6月は京都府の「畜産環境保全月間」です!

これを機会に、堆肥化処理過程の点検を行いましょよう。

良質な堆肥を作る4つのチェックポイント!

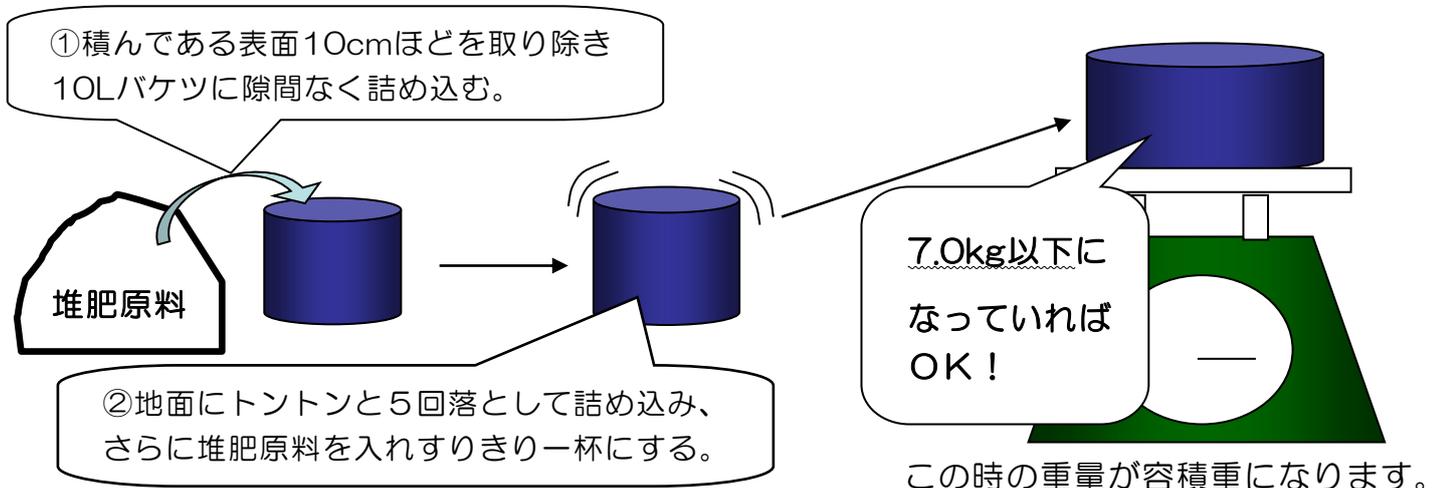
① 好気発酵を行いましょよう!

- 堆肥作りで重要なのは、酸素を十分に含ませた好気発酵を行うことです。切り返しを行って空気を入れることで、悪臭の発生を抑えられます。



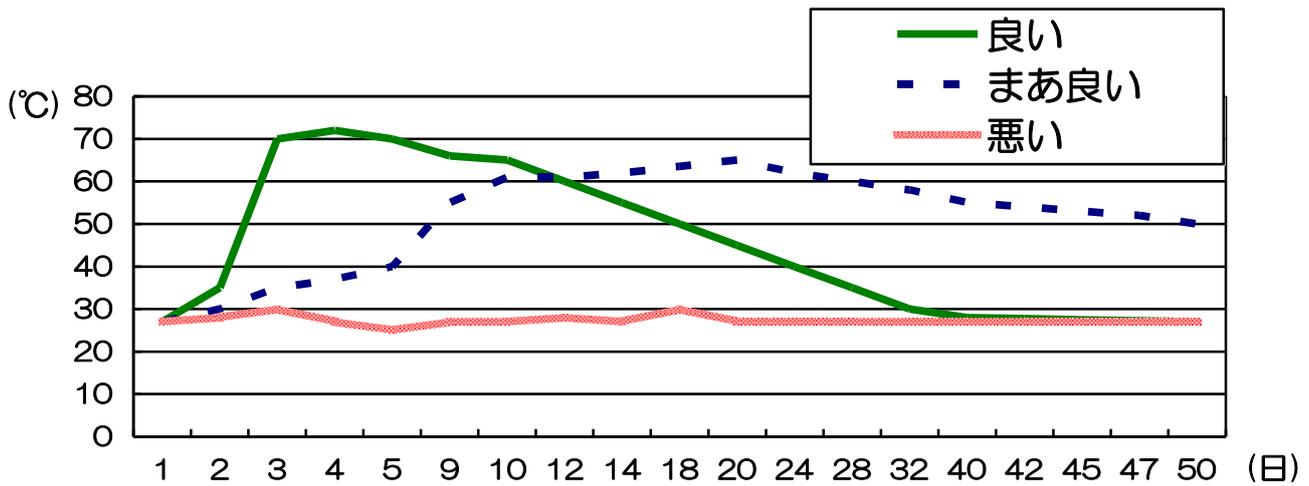
② 好気発酵のポイントは容積重!

- 堆肥原料の水分を調整して堆積し、定期的に切り返しを行うことで好気発酵を行います。水分は容積重(容積あたりの重量)で予測します。



※重い(水分が多い)場合にはオガクズ等副資材を混ぜて調整します。

③ 温度を測って発酵が良好か確認しましょう！



- 堆肥の発酵状態は、堆肥内部の温度で判断しましょう。
少なくとも60°Cで2日間以上続けないと、良い堆肥とは言い切れません。
- 55°C1日以上持続して初めて病原体（大腸菌やサルモネラ、寄生虫）が死滅します。病原体が死滅しないと、敷料に再利用ができないうえ、堆肥置き場が病原体の巣になってしまいます。
- また、60°C2日以上持続しないと、ふんに含まれる、雑草の種子が死滅しません。「堆肥をまいたら畑に見たこともない雑草が生えた。」といったクレームがないよう、良質な堆肥作りを目指しましょう。

④ 見た目やにおいも重要なポイント

- 発酵特有の暖かい（生ぬるい）匂いがします（臭いではありません）。たまねぎやキャベツの腐った臭いはなく、腐葉土のような匂いです。
- また、酸素が十分な状態だと堆肥は褐色～黒褐色になり、分解速度が速いほど色は淡くなります。さらに繊維質作物資材や木質資材を混入していれば、これらの形状が壊れた様子から堆肥化の進み具合を判断することができます。これにより切り返しや搬出のタイミングを判断しましょう。

堆肥作りを見直してみませんか？

- 堆肥化処理の基礎を見直すことで、もう一段高いレベルの良質堆肥を生産できるかもしれません。
- 分からないこと、相談したいことがありましたら、家畜保健衛生所までご連絡ください。

京都府中丹家畜保健衛生所

〒620-0954 福知山市字半田 371-2

TEL 0773-25-1860 FAX 0773-25-1861